

それぞれ常に独特のアクセントを持っています。しかし、それを気にせず、言葉を道具として適当に相互理解をはかり、議論が進むのが不思議です。

そして、ポスト・ドクトラルについて一言いわせていただくと、この節は ph. D. をとると会社が高給（年俸3万ドル位）で雇ってくれることもあつて、給料の安いポスト・ドクトラルにアメリカ人になることは稀のようです。そのため、インド人をはじめとする外国人が多くこの職についています。もつぱら、教授がとつてきた契約（Contract）に基づいた仕事をするわけで、そこから給料も出ます。そして最近では軍、NASA、エネルギー省、会社などがスポンサーです。こちらで教授たることの評価に講義がどのくらい学生に理解されるか、研究成果がどのくらいあるかに加えて、研究資金をどのくらいとつてこれるか、給料にまで影響するという話を聞くと、やはり、そこに厳しさを感じます。

そして、研究外としてはトロイはニューヨーク市など

から比較すると田舎で、朝夕の交通渋滞もなく、かなりの人達が昼食を自分の家でとっています。その理由の一つにほとんどの人が大学から車で10分以内のところに住んでいることが挙げられます。また、夏などは夜の9時頃まで明るいこともあつて、5時に仕事が終わつてから、テニス、水泳、ゴルフ、野外音楽会など結構いろいろなことができます。その反面、冬は寒く零下15°Cくらいにはなります。もつとも一般に建物の中は暖かいので、外に出ない限りは寒くありません。そして、もちろんスキーとスケートができ、冬期オリンピックの開かれたレークプラシッドまで車で、2時間位です。おわりに、私自身がここにきて、まだ10ヶ月しかたつていないので、十分状況を理解していないに相違ないのですが、それでも、この地が豊かであるという気がします。そして偏見の少ないことなど環境はよいと思います。私の下げた日本人の評価を上げてくれる人が次々ときてくれるのを待っています。

統計

製鋼設備、連鑄比、歩留り……

— 日米の比較 —

アメリカは1979年の粗鋼生産実績のうち、14.1%をまだ平炉に依存している。これに対し、西ドイツは9.8%、イギリスは5.4%となつており、わが国では78年以降、平炉による生産はもはや行われていない。

また、近年、歩留り向上、エネルギー節約の点で効果が著しく、急速に普及してきた連続鑄造法による粗鋼生産の比率—連鑄比—をみると、1979年の実績で、アメリカが16.7%であるのに対し、西ドイツは39%、

わが国は52%に達している。アメリカの粗鋼対鋼材製品の歩留りが、78年に71.5%（AISI算定）であるのに対し、わが国は87.9%（鉄連算定）と大差がついており、また、粗鋼t当たり石炭換算エネルギー消費量が、IISI統計によると、76年当時で、アメリカの906kgに対し、西ドイツは799kg、わが国は729kgとアメリカの消費量が多いのは、連鑄比の差に起因するところが少なくないとみられる。

（鉄鋼界報，No. 1221，昭55.12.1）